

2026 年 1 月 23 日
三井化学株式会社
株式会社プライムポリマー

～ コンビニ業界初、ローソンと三井化学の「バイオ&サーキュラー」な取り組み ～ マスバランス方式によるバイオマスポリエチレンとケミカルリサイクルポリエチレン 「Prasus®」が、ナチュラルローソンのレジ袋に採用

三井化学株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 修、以下「三井化学」）は株式会社ローソン（本社：東京都品川区、代表取締役社長：竹増 貞信、以下「ローソン」）が運営するナチュラルローソンで販売するレジ袋に、三井化学グループである株式会社プライムポリマー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：吉住 文男）が製造販売するマスバランス方式によるバイオマスポリエチレンとケミカルリサイクルポリエチレン「Prasus®」が採用されました。

ローソンは、マスバランス方式によって割り当てられたバイオマス特性・リサイクル特性を持つポリエチレンを主原料に100%使用したレジ袋を 2026 年 1 月から一部の店舗で順次導入し、今後ナチュラルローソン全店への導入拡大を計画しています。マスバランス方式によるバイオマスポリエチレンとケミカルリサイクルを併用したレジ袋の開発は、コンビニエンスストア業界初の取り組みとなります。

※ローソン 特設サイト：

https://natural.lawson.co.jp/sp/campaign/detail/1512650_5475.html

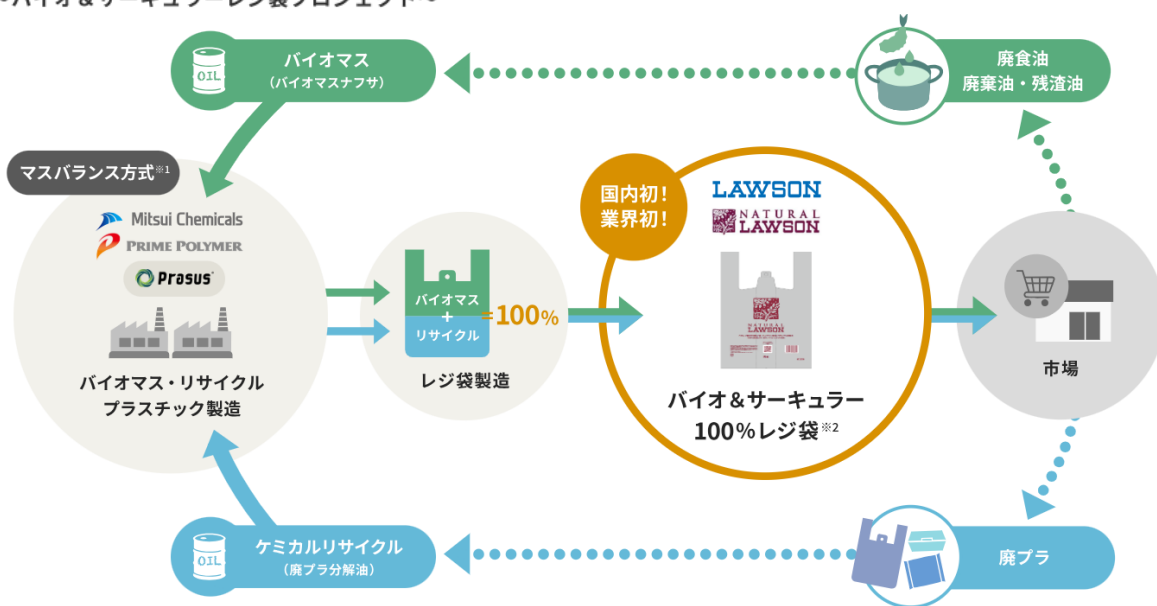
※三井化学 特設サイト：

<https://jp.mitsuichemicals.com/jp/sustainability/beplayer-replayer/case/lawson/index.htm>

※両社の特設サイト公開日：1 月 27 日（火）

スキーム概略図

～バイオ&サーキュラーレジ袋プロジェクト～



※1 マスバランス方式とは、バイオマスやリサイクルの特性を製品に割り当てる仕組みです。実際にこのレジ袋に含まれている割合ではありません。

※2 添加剤やインキ等、副原料を除いた主原料ポリエチレンの比率になります。

■プラスチックをめぐる環境課題

プラスチックを取り巻く主な課題は「地球温暖化」と「プラスチックゴミ問題」の 2 つです。地球の気温は 2100 年までには 5.7℃上昇するとされ^{※1}、国内における廃プラスチックの年間総排出量は 769 万トン^{※2}にも上ります。

一方で日本のプラスチックごみのリサイクル率は、有効利用率として 89%と高いですが、サーマルリサイクルが 64%を占めており、熱源や発電の原料として有効活用されているものの、素材として 2 次利用されずに焼却による CO₂排出に繋がっていることとなります^{※3}。

容器包装リサイクル法に基づきプラスチック容器包装だけを集めた場合のリサイクル率（従来方式）は 45%程度^{※4}であり、約半分は素材としてリサイクルされているものの、半分はサーマルリサイクルなどで処理されています。つまり半分は、熱源や電気として有効活用されているとはいえ、素材として 2 次利用されず焼却による CO₂排出に繋がっていることとなりますので、大気中の CO₂を増加させないプラスチックのバイオマス化を並行して進めることが重要です。

また近年では、ケミカルリサイクルという新たな技術を活用する事でより多くの廃プラスチックの再資源化が可能となると共に、従来の石化由来のプラスチックと品質・安全性も変わらないことから、社会全体のリサイクル率の更なる向上に貢献する技術として注目されております。

※1 JCCCA による IPCC6 次報告資料：<https://www.jccca.org/download/43044>

※2 一般社団法人プラスチック循環利用協会：<https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf1.pdf>

※3 プラスチック循環利用協会：<https://www.pwmi.or.jp/column/column-2566/>

※4 3R 推進団体連絡会：https://www.3r-suishin.jp/PDF/2024Report/Followup_Report2024_all.pdf

■「バイオ&サーキュラー」で実現する新たなレジ袋のかたち

プラスチックを取り巻く課題に対応する象徴的な取り組みとしてローソンと三井化学は協働し、バイオマス素材とケミカルリサイクル由来のリサイクル素材を主原料に 100%使用したバイオ&サーキュラーなレジ袋を開発しました。これにより新規化石資源の消費を減らし、廃棄プラスチックを再度資源として活用するリサイクル率を高めると共に、地球温暖化の原因となる CO₂の排出量を 36t/年削減^{※5}します。

バイオマスとリサイクルの両輪（バイオ&サーキュラー）で取り組むことで実現されるリジェネラティブ（再生的）な未来に向けて、ローソンと三井化学は環境負荷の低減に取り組んでまいります。

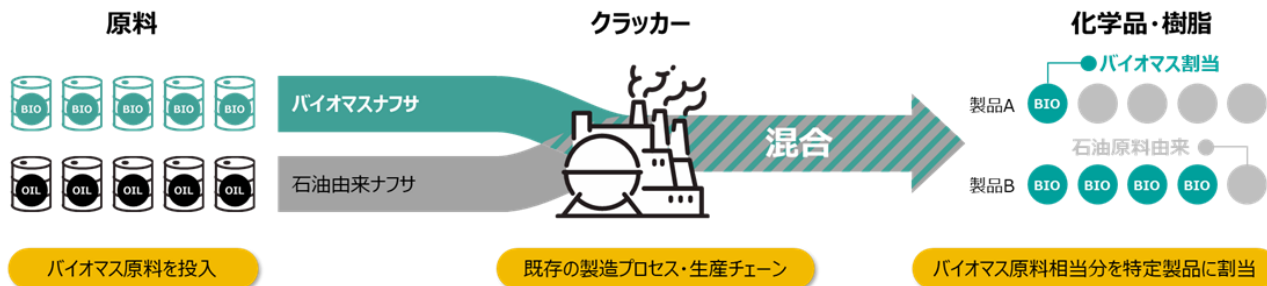
※5 ナチュラルローソン全店展開時

■マスバランス方式（物質収支方式）とは

「原料から製品への加工・流通工程において、ある特性を持った原料（例：バイオマス由来原料）がそうでない原料（例：石油由来原料）と混合される場合に、その特性を持った原料の投入量に応じて、製品の一部に対してその特性の割り当てを行う手法」（環境省バイオプラスチック導入ロードマップ）を言います。

石油由来のプラスチック・化学品と物性が全く変わらないこと、これまで難しかった素材でもバイオマス化やリサイクル由来とすることが可能になるなど、カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミー社会の実現に向けて社会全体のバイオマス度やリサイクル率を向上させるための重要なアプローチです。

三井化学グループでは、既に約 50 の製品群でマスバランス方式によるバイオマス・リサイクル製品を提供しております（2026 年 1 月現在）。



■ Prusus®



株式会社プライムポリマーが展開する、新しいフィードストックを使用したマスバランス方式による環境にやさしい持続可能な製品（ポリエチレン、ポリプロピレン）のブランド名

以上

<お問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6880-7500

お問合せフォーム https://form.mitsuichemicals.com/corporate/cc_pr_csr_ja